

平成29年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力  
「スパニッシュ・タウン病院医療器材整備計画」贈与契約署名式

2018年1月15日、山崎大使は保健省にて行われた、平成29年度対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力「スパニッシュ・タウン病院医療器材整備計画」の贈与契約署名式に出席し、81,376米ドルの贈与契約に署名を行いました。

スパニッシュ・タウン病院では、年間約5,000件の出産を行っているにも関わらず、妊産婦および胎児の健康状態をチェックする超音波検査器を1台しか保有していないため、1日あたりの診察可能数は10～12名程度に限られていました。その為、同病院で超音波検査を受診することができない妊産婦は、診療費の高い個人経営のクリニックでの受診を余儀なくされており、2016年には、経済的に余裕がなく適切な検査を行えなかったことに起因する死産が89件確認されました。

当プロジェクトでは、同病院に最新の妊産婦用超音波検査器を1台供与することにより、より多くの妊産婦患者に必要な検査を行うことを可能にし、母子保健機能の向上に寄与することを目的としています。

署名式には、クリストファー・タフトン保健大臣、ビバリー・ニードハム・セントキャサリン地区保健担当官、スパニッシュ・タウン病院事務局長のドウエイン・フランシス氏、保健省関係者が参列し、日本と同病院および保健省との継続的なパートナーシップを祝いました。

タフトン大臣は、当プロジェクトが現在の保健省が重要課題として取り組んでいる、スパニッシュ・タウン病院のインフラ整備事業の方針に合致しており、とても有益であると賞賛すると共に、当国での草の根・人間の安全保障無償資金協力のプログラム開始以来、数多くの病院や診療所で行ってきたの支援を挙げ、日本政府および国民に感謝を述べました。

山崎大使は、このプロジェクトによる支援が、ジャマイカの人々の健康で安全な生活を守るために役立ち、日本とジャマイカのパートナーシップが一層強固なものになる事への喜びを述べました。



(左) 贈与契約への署名



(右) 左より、フランシス・スパニッシュタウン病院CEO、ニードハム・セントキャサリン地区保健担当官、タフトン大臣、山崎大使



(左) ニードハム・セントキャサリン地区保健担当官



(右) 山崎大使のスピーチ